

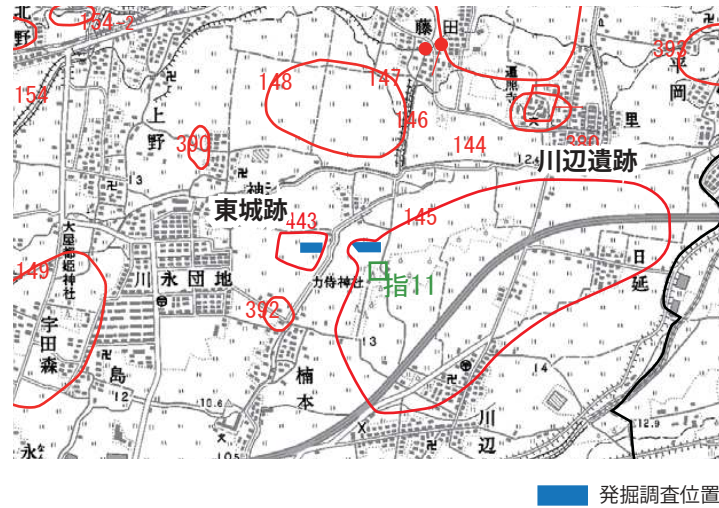
東城跡発掘調査現地説明会資料

—都市計画道路西脇山口線道路建設事業に伴う発掘調査—

◆はじめに

公益財団法人和歌山県文化財センターでは、和歌山県（海草振興局街路公園課）から委託を受けて、都市計画道路西脇山口線道路建設事業に伴う東城跡発掘調査を平成29年8月より約 4,000 m²を対象に実施しています。

発掘調査は、排土置き場等の関係から南北2つに分けて実施しています。南側部分約 1,800 m²は、既に発掘調査を完了して埋め戻しを行っており、現在北側部分 2,200 m²の発掘調査を実施しています。



◆東城跡とは

東城跡は、紀ノ川右岸の自然堤防並びに和泉山脈から流れる雄ノ山川の扇状地又はその末端に広がる散布地、城館跡の遺跡で、都市計画道路西脇山口線道路建設事業を契機に新たに発見されました。

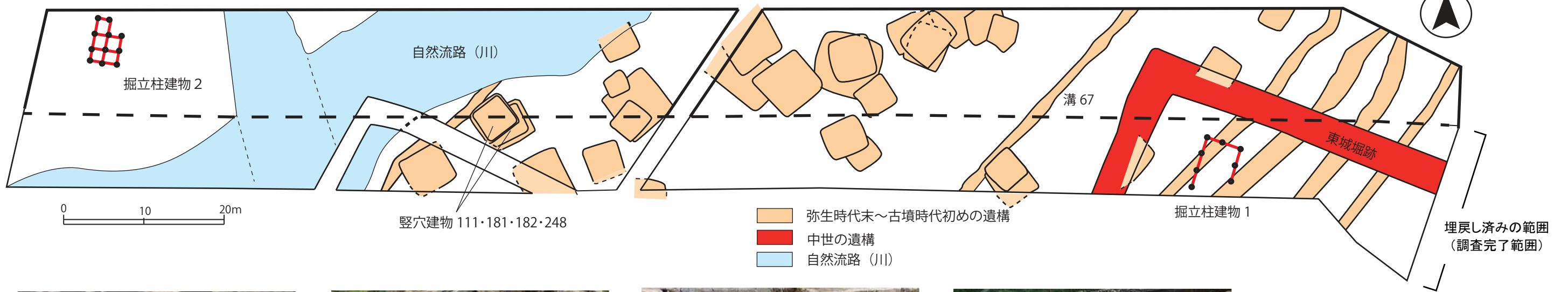
この東城とは、中世にこの地で勢力を誇ったとされる中村氏の館跡であったと言われており、天守閣や石垣を伴うようなお城ではなく大きな館であったと考えられます。なお、東城という名称は、この地より西にあったとされる山名氏の館跡を「西城」と呼んでいたためとも伝えられています。

◆発掘調査の成果

今回の発掘調査では、まさに「東城」の存在を裏付けるような平安時代の終わり頃から鎌倉時代にかけての検出幅4m、深さ1.1m余りの大きな堀の跡が発見されました。確認された堀は西北コーナーを含む延長60mで、その平面形からおそらく館を方形に取り囲む堀であったと思われます。このことから、館は調査地よりさらに南側に広がると推定されます。

また、東城が築かれる以前の弥生時代末から古墳時代初めにかけての溝や竪穴建物も数多く発見され、この時期の土器が多数出土しました。このことから近隣の田屋遺跡や西田井遺跡と同じような当該期の大規模集落が、この地にも営まれていたことも今回新たに判明しました。さらに調査区の西側で、北東から南西方向に流れていた古い自然流路（川）の跡もみつかっています。竪穴建物はすべてこの川より東側で見つかることから、集落の範囲はこの川の前身で限られていたと考えられます。

〈検出遺構の模式図〉



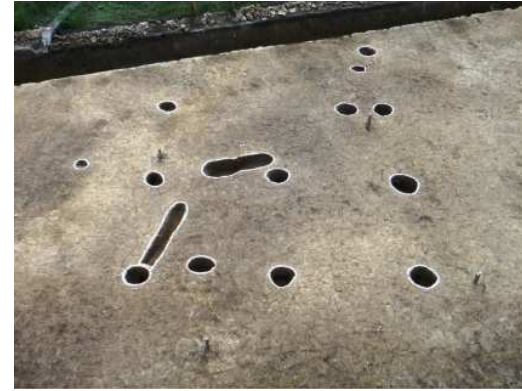
竪穴建物111・181・182・248(東から)
(埋戻し済みの範囲)



竪穴建物群(東から)(埋戻し済みの範囲)



溝67遺物出土状況(南から)(埋戻し済みの範囲)



掘立柱建物1(北から)(埋戻し済みの範囲)



東城堀跡(北東から)(埋戻し済みの範囲)

